

し上げますとともに、皆様の益々のご発展をお祈りいたします。ありがとうございました。

第三十一回日本小児外科学会 秋季シンポジウム／P S J M 2015報告

第三十一回日本小児外科学会秋季シンポジウム／P S J M 2015事務局担当

熊本大学小児外科・移植外科

宇戸 啓一

平成二十七年十月三十一日(土)に、第三十一回日本小児外科学会秋季シンポジウムを、熊本大学大学院生命科学研究所小児外科学・移植外科学分野の猪股裕紀洋教授を代表世話人として、県民交流館パレアと鶴屋ホールにて開催致しました。また十月二十九日(木)、三十日

(金)の両日に第三十五回日本小児内視鏡外科・手術手技研究会(東京女子医科大学小児外科 世川修会長)、第四十五回日本小児外科代謝研究会(久留米大学医学部外科学講座小児外科部門/医療安全管理部 田中芳明会長)、第七十二回直腸肛門奇形研究会(久留米大学医学部外科学講座小児外科部門 八木実会長)、第二十回日本小児外科漢方研究会(九州大学大学院医学研究小児外科学分野 田口智章会長)の四研究会からなる Pediatric Surgery Joint Meeting (P S J M) 2015も同時開催され、全国より計四〇〇名以上の方々にご参加いただきました。

ました。

秋季シンポジウムにおける今年のテーマは難治性良性腫瘍でありましたが、例年以上の演題応募があり、急遽二会場を準備する必要がでるなど、高い関心のほどがうかがえました。前半は、難治性良性腫瘍の代表的疾患である血管腫とリンパ管腫に関して、「標準化と新たな試み」と題して第一線の先生方にパネルディスカッション形式でご発表いただき、分類、診断、薬物治療、手術治療等に関する議論が交わされました。後半は、その他の難治性良性腫瘍も含めて、各疾患に対する診断、治療、施設成績、さらに症例検討と活発な討議が行われ、各セミナーや同時開催のP S J M 2015各研究会、また各種関連会議と合わせ、盛会の後に三日間の会期を終えることができました。

日本小児外科学会秋季シンポジウム／P S J Mは、日本小児外科学会学術集会和並ぶ小児外科関連の全国学会のうちの一つであり、今回の学会を機に、多くの小児外科関連の先生方、コメディカルの方々に熊本を訪問していただきました。季節的にも、過ごしやすい時期での開催となり、熊本城や、阿蘇山をはじめとした観光地の訪問や、くまモンの登場、懇親会での食事や牛深ハイヤでの歓迎など、熊本の魅力も十分に感じていただけたのではないかと思います。各方面から、今回の熊本地震に対するご心配、励ましの言葉やご支援を頂戴しましたことを、

この場を借りて御礼申し上げます。

第三十一回熊本医学・生物科学 国際シンポジウム報告

熊本大学大学院生命科学研究所神経精神医学分野教授

現 大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室教授

池田 学

平成二十七年九月十四日(月)から十五日(火)にかけて、熊本大学大学院生命科学研究所神経精神医学分野が担当となり、熊本KKRホテルにて、第三十一回熊本医学・生物科学国際シンポジウム The forefront of Dementia Research を開催いたしました。ご支援およびご指導を頂きまして、この場をかりて皆様に深謝申し上げます。

本シンポジウムでは、国内外の認知症に関する様々な分野における先端の研究をお招きし、四つの plenary lecture と、五つのシンポジウムを行いました。

認知症の疫学についてはイギリスのケンブリッジ大学公衆衛生学の Carol Brayne 教授から、近年国際的な関心事となつているグローバルな高齢化問題と認知症対策について、ご講演を頂きました。アメリカのUCSFの Bruce Miller 教授からは前頭側頭型認知症について、レビー小体型認知症の発見者であり世界的権威の一人である横浜市立大学名誉教授の小阪憲司先生からはレビー小体型の歴史について貴重な講演を頂くことが

できました。近年の進歩が著しい神経画像については、ケンブリッジ大学の John O'Brien 教授より、認知症疾患における脳画像の最新の知見と今後の可能性についてご講演を賜りました。

認知症の疫学に関するシンポジウムは、認知症縦断研究の世界的権威であるスウェーデンのエーテボリ大学の Ingemar Skoog 教授に座長兼演者をお願いし、九州大学九州大学大学院医学研究科精神病態医学の小原知之先生、カナダの McGill University の Serge Gauthier 教授とともに、最新の研究知見に基づき活発なディスカッションがなされました。特発性正常圧水頭症のシンポジウムでは、東北大学医学部高次脳機能障害学教授の森悦朗先生に座長をしていただき、

大阪大学精神科の数井裕光先生、韓国のソウルアサン病院神経内科の Jae-Hong Lee 先生にシンポジストを務めていただきました。

レビー小体型認知症のシンポジウムでは、森悦朗先生に再び座長をお願いし、熊本大学神経精神科の橋本衛先生、Serge Gauthier 教授、イギリスのニューカッスル大学、老年精神医学分野の Alan Thomas 教授によって、最新の研究動向を踏まえて症候論、画像、早期診断などについて議論が展開されました。

前頭側頭型認知症のシンポジウムでは、Bruce Miller 教授に座長をしていただき、東京慈恵医科大学精神科の品川俊一郎先生、インドの Apollo Glencables Hospital